



公明党 **須藤 直樹** 

こども・若者の声を市政に 11

問 誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こども・若者の声を継続的に聴くための積極的な場づくりが必要と考えるが、市はどのように考えるか。

答 **こども未来部長** こども・若者から直接意見を聴くことに関し、来年度以降、定期的な実施を検討する。

より多くのこども・若者の声を聴くため、WEB会議システムを活用したオンラインでの実施、こどもホームページにおける意見表明のページの整備を検討している。

こどもまんなか社会の実現に向けて、当事者であるこども・若者等の意見を聴き、市政への市民参加やまちづくりに生かしていきたいと考える。

 こども・若者の声



公明党 **鈴木 謙一郎** 

耳で聴くハザードマップ 12

問 視覚障がい者や高齢者向けに防災情報を発信する「耳で聴くハザードマップ」の導入について、本市ではどのように考えるか伺う。

答 **危機管理監** 耳で聴くハザードマップは、スマートフォンなどの端末から現在地や周辺のハザードマップの情報を音声で聴くことができることから、視覚に障害のある人が地域の水害リスクや最寄りの避難場所などを確認する手段として有効と考えている。利用契約の締結に当たっては、契約する自治体の単位が都道府県、政令指定都市または特別区となっていることから、今後、埼玉県に導入の意向確認を行うなど調査したいと考えている。

 川越市の災害対策



公明党 **田畑 たき子** 

障がい者施設について 13

問 障がい者グループホームなどの障がい福祉サービスの質の確保について、市はどのように取り組んでいくのか。

答 **福祉部長** 障害福祉サービス事業者を対象に障害福祉サービスの維持、向上のための集団指導および説明会を実施している。また、実地指導により、事業所の運営や利用者へのサービスが適正に提供されているかを確認し、必要に応じて行政指導を行うなどサービスの質の向上を図っている。なお、入所施設やグループホームでは、地域連携推進会議の設置が令和7年4月から義務化される。事業所運営の透明性や地域連携により、サービスの質が担保されるものと認識しており、設置を支援していく。

 小型家電とリチウム電池  障がい者施設



公明党 **嶋田 弘二** 

イエローチョーク作戦 14

問 犬のふん放置対策の一つである、イエローチョーク作戦について、市の見解を伺う。

答 **保健医療部長** イエローチョーク作戦は、既に実施している自治体の中には、ふんの放置が減少したという成果を公表しており、効果的な手法の一つであると認識している。まずはイエローチョーク作戦を市民に認知してもらい、気軽に取り組めるための環境づくりに努めていく必要があると考えている。一方、実施に当たり注意点もあるため、既に実施している自治体に具体的な取り組み方法や課題等について調査を行い、効果的な周知方法等を検討していきたいと考えている。

 イエローチョーク作戦



公明党 **小ノ澤 哲也** 

定期接種化への準備を！ 15

問 带状疱疹ワクチンが、急速に定期接種化へと進んでいる状況がある。接種者の自己負担の軽減など、課題も整理して準備を進めるべきと思うが、市の考えは？

答 **保健医療部長** 今年度に入り、国の審議が急速に進み始めていることから、審議会における带状疱疹ワクチンの定期接種化に向けた動向を注視するとともに、他市の対応状況などの把握に努めていく。また、定期接種化となった場合、本市において、どの程度の財政負担が生じるのか試算を進めるとともに、川越市医師会などの関係機関との情報共有を図り、定期接種化に向けた課題の整理および準備を進めていきたいと考えている。

 带状疱疹ワクチン

 RSウイルスワクチン



初雁自由政令会 **村山 博紀** 

自主防災組織と共助の促進 16

問 自主防災組織の拡充と自助・共助の促進による市民の防災意識の醸成のために市として何ができるのか、16年間の任期中市民の安心安全に尽力してきた市長の考えは。

答 **市長** 自主防災組織の拡充については、組織を結成していない自治会に対して、これまで以上に市の方からアプローチして結成を促す必要があると考えている。また、市民の防災意識の醸成に関しては、職員が地域の防災訓練に参加するなどの地道な活動を継続するとともに、市が実践的な訓練を企画し、地域住民に多く参加してもらうなど、公助と共助が一体となった取り組みを行うことで、市民の防災意識の向上につなげたいと考えている。

 自主防災組織と災害対策